

自己実現への道

第76回 ー 第5章 「常に進歩をめざすところに生きがいがある」(その5)

★心を襲う嵐に、耐え抜く精神力を養う

「疑惑」という敵の襲撃を撃退するため、私たちは精神を強化する訓練を積み重ねなければならない。日々の努力の蓄積により、積極思考の哲学を樹立したとしても、突然の不遇な状況により、突然、魂が砕け、くじけてしまうことがある。しかし、あなたの精神に確固たる哲理が樹立されていれば、恐れることはない。どんなに過酷な状況も、いずれは通り過ぎる嵐に過ぎないのだ。

人生の最も不遇な時期に、恐ろしい疑惑の矢が突き刺さるのを防ぐ、強固な信念の楯が与えられるように、毎日強く願うのだ。

強い精神（強い信念など）を築くには、時間が必要である。多くの努力によってはじめて可能になる。

努力なくしては、大きな仕事はできないし、人生を有意義にすることもできない。頑張るのだ。

★「ベストよりも劣るものには、屈服しない」

「人はパンだけでいきるものではない」・・常に「美」を求めて生きているのだ。

ある建築士が「美というものは実用的でもあります」と言った。そして「人間はアスファルトやセメントの上ではなく、自然（庭）の中に住むように作られています。人の心や精神を養うには美が必要なんです。例えば、人をコンクリートジャングルの中に住ませると、やがてコンクリート動物になってしまい、美の感覚をなくしてしまうんです。そうすると、自分の周囲にいる人々の中に潜在している美が見えなくなってしまう、人々を口汚くのしるようになり、拳の果てには暴力を振るうようにさえてしまうのです」と述べた。

美は自分が勝手に選択できるものではなく、また、代わりがきくものでもない。

美こそ人類を人間らしく保ってくれるものである。

美は神へ近づく第一歩である。

「心を美しく、自分の住む環境をできるだけ美しく」・・そうすることによって「生きがい」が生まれるのである。

「美と信念」とは調和するものである。

また、信念によって、多くの意味で人生が美しくなるであろう。

美は信念の働きによって得られる精神的な価値だからである。

信念の道をしっかり歩みたい人は、美のセンスを身につけなければならない。

美を愛する心が一旦身につくと、美よりも価値の低いものからどんなに誘惑されても、人は美への夢を決して放棄しない。

どうすれば志半ばで情熱の火が燃え尽きる習慣から抜け出すことができるだろうか？

どうすればこの再発しやすい虚弱体質を克服することができるだろうか？

答えは明らかである。「ベストよりも劣るものには屈服しない」、という信念を持つことだ。

美を求める心には妥協の余地はないという固い信念を持つことである。

<MIKO>

参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より